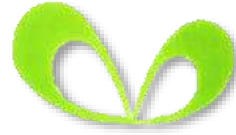


SINAPIS



Vol.
82

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

2023.03

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

今月のテーマ

「過去を振り返るとは」

タイトル:

「平和に向かって」

作: 松永 珠実さん (13歳)
第1回シナピス主催絵画コンテスト
シナピス賞受賞作品

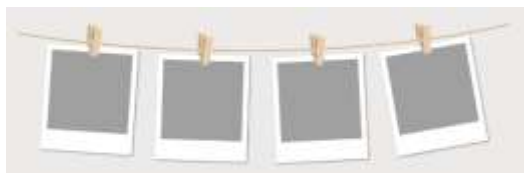
TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

カリタスジャパン担当
松永 敦^{まつなが あつし}

2010年度は長崎の小神学校で舎監をしていました。2011年度は西宮の仁川教会と仁川学院中学高等学校での実習が決まっていたことから、準備のため、2月末に一旦、東京の神学校へ戻りました。東日本大震災を迎えたのはちょうどその時です。当日は数名の神学生が山谷へ炊き出しに行っており、鉄道が止まったことから、車で迎えに行くことになりました。普段であれば1時間程度の距離に4時間もかかり、その間、携帯電話が何度も地震の警報音を鳴らしていたことを覚えています。

そして、3月中頃に西宮へ引っ越しました。中高生を連れて、東北へいくことは現実的に難しく、またお金もかかることから、関西にしながらできる支援はないかと探していたところ、写真洗浄ボランティアというものがあるのをインターネットで見つけました。アルバムは玄関ではなく、押し入れなど家の奥の方にしまうものです。それが津波で流されたということは、大きな被害を受けている可能性が高いと考えられます。生徒たちと写真を洗いながら、写っている方々の顔を見ていると、元気にされているのだろうか、それとも……やるせない気持ちになってきて、被災地へ行きたいという思いがどんどんと強くなっていきました。そして、翌年夏に1か月ほど南三陸へボランティアに行きました。その後は毎年のように被災地を訪れています。

今、『すずめの戸締り』という映画が上映されています。この映画を観ると、被災地で出会った方々のことを思い出します。家族を失った人。家を失った人。それでも、希望を与えたいと、自宅跡にひまわりを植えていた人。そして、命を失った人。東日本大震災を振り返ると、胸の奥の方でじんじんとうずくものを感じます。人々との繋がりが今もあるように感じます。戦争などしている場合ではない。命は奪うためではなく与えるために使うべきです。ニュースを見ていて、そのように思います。



ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 ふっこうのかけ橋
～福島、浜通りを訪問して～
- 3 子どもの本で平和をつくる
- 4 シナピスこども基金より
- 5 障がい者委員会より
- 7 社会福音化部門司祭より
- 8 時報 2月号・3月号より
- 13 シナピスホーム便り
- 14 祈りの集い報告
- 15 ガリラヤの風
- 16 みんなのけいじばん

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・3月の祈り
- ・Vol.1 シナピス工房四旬節カタログ
- ・わすれないあきらめないカレンダー
- ・キリスト者死刑廃止シンポジウム
- ・とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2023 春 関西のつどい
- ・ストップ！福島第一原発汚染水の海洋放出
- ・ALPS 処理汚染水の海洋放出に反対しよう
- ・オンライン入管法改悪反対署名案内
- ・君が代強制反対キリスト者の集い大阪11th

年間テーマ

～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

ふっこうのかけ橋 ～福島、浜通りを訪問して～

神戸地区 のむらきり 野村季里

2022年11月、「ふっこうのかけ橋」の今後の在り方を模索して、福島県南相馬市を訪問した。きっかけは「正義と平和 2021 大阪大会」の分科会への参加だった。カリタス南相馬、原町教会からも分科会に参加していただき、私たちは浜通りの現状を直接お聴きすることができた。

2012年から始まった保養プログラム「ふっこうのかけ橋」は11年目を迎えたがこの3年間は開催をすることができず、2019年を最後にストップしていた。その間子どもたちも成長し生活環境が変化したことや、中通りでは復興が進み生活が元に戻っているのに保養プログラムという言葉は風評被害を招くというような意見も聞かれ、これからの「ふっこうのかけ橋」の在り方について考える時期に来ていた。

分科会の分かち合いで、浜通りは津波と原発の被害を抱え、未だ復興には問題が山積している状況であると知った。「みなさんこちらにきてください」というカリタス南相馬のシスターの言葉に背中を押され、まずは私たちが訪問してみようということになった。



うけど
請戸小学校

奇しくも分科会から丸1年の同じ日に神戸空港から仙台へむけて5人のグループで出発した。仙台に到着してまずは空港から北へ向かい震災遺構を見学した。

津波に襲われた小学校跡ではいくつもの奇跡が重なり全員が避難できたという説明に安堵したが、すさまじい津波の爪痕には恐怖を覚えた。

2日目はカリタス南相馬の所長さんの案内で原町、おだか小高区、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町というルートで最終目的の東電廃炉資料館へ向かった。途中慰霊碑で祈りを捧げ、震災遺構、伝承

館を訪れ午後2時ごろ到着した廃炉資料館では廃炉までのプロセスが映像やパネルで説明されていて質問にも丁寧に答えてくださった。素人の私がすべてを理解することは難しかったが、いまだ少量の燃料デブリさえ取り出すことができないという現実、人間の力ではどうすることもできないのかと気持ちが沈んだ。私も少なからず原発の恩恵を受けたものとして未来に大きな課題を押し付けたようでなんとも後ろめたく感じた。この日は中通りに住む、以前「ふっこうのかけ橋」に参加されたお母さんも同行していたが、福島に住みながら浜通りのことをあまりにも知らなかったことにショックを受け周りの方に伝えたいと仰っていた。



大川小学校校舎

最終日は南相馬から北上し石巻の大川小学校を見学。ここでは子どもたちと教職員あわせて84名の方が亡くなった。校庭からすぐの裏山ではなく、川沿いの小高い場所への避難を選択し避難途中で犠牲になった。前日までに訪問した小学校では奇跡や偶然が

子どもたちの命を守ったがここではそうはならなかった。慰霊碑の前で祈りを捧げ改めて3日間を振り返った。震災からもうすぐ12年、この間各地で大きな災害が起こり人々の記憶も上書きされつつある。しかし原発被害からの復興は途方もない年月を要するだろう。私たちは伝え続けなくてはいけない。二度とこのような想定外という人災を起こさないために。「ふっこうのかけ橋」で繋がった方たちとともにこれからも歩いて行くために、今年もかけ橋を渡ってみようと思う。



慰霊碑

子どもの本で平和をつくる ⑨

たごけいこ
多湖敬子

ソエは、生まれてからずっと同じ町で暮らしてきましたが、戦争のせいで、家族と逃げなければならなくなりました。町を出る前の晩、ソエは机の上に町の地図をひろげて、楽しいことがあった場所にしるしをつけてみました。

最初にしるしをつけたのは、自分の家。はじめて言葉を話し、初めて歩いたのもこの家。次に学校の古い校舎。先生やなかよしの友だちのことを思い出しました。それから大好きな図書館や本屋さん。本棚には宝物がつまっていました。町の真ん中にある公園では、ブランコや自転車に乗って遊びました。川や橋にもしるしをつけました。しあわせな時をくれた場所にぜんぶしるしをつけたのでした。

「町のあちこちにちらばった しあわせのしるし。ながめているうちに、そのしるしを赤えんぴつで むすんでみようとおもいました。」

驚いたことに、あらわれた形は ” ZOE ”

自分の名前が浮かび上がっていたのです。

「それはまるで 町がソエにくれた おわかれのプレゼントのようでした。いま、頭をかけめぐっている この しあわせなおもいでは、この先どこに行っても いつまでも ずっと わすれないと ソエは おもいました。ソエは、じぶんの かばんのおくに すきまをあけ、しあわせなときの地図を たいせつに しまいこみました。せんそうがおわって いつかもどってくる、その日のために。」(「」は本文)



しあわせなときの地図

文：フラン・ヌニョ

絵：ズザンナ・セレイ

訳：宇野和美

出版社：ほるぷ出版

価格：¥1400+税

2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻がはじまり、ほどなくしてウクライナから国境を超えてポーランドに向かう人々の中に、幼い男の子が一人で泣きながら国境を越えるようすが、映像で繰り返し流されていたのを記憶している人も多いと思います。

ボーダー柄のアウトターを着て、帽子をかぶった男の子の手にはビニールの手提げがあり、その中にはぬいぐるみが入っていて、もう片方の手にはチョコレートが握られていたそうです。

あの子の映像が今も脳裏から消えません。あの子はその後どうなったでしょう。

人びとの平和への思いも届かず、侵攻から1年が経ってしまいました。ロシア正教のクリスマスである1月7日にはまさかのクリスマス休戦?との願いも空しく、絵空事のように宙に消えてしまいました。

戦争、紛争のせいで、ソエのように住み慣れた町を離れなければならなくなった人たち、また地震などの自然災害により故郷を後にしなければならない人もたくさんいます。

2023.3.11 東日本大震災から12年を迎えます。地震のみならず、津波により被害が甚大になり、加えて3.15 に原発事故が発生して更なる悲劇が起きました。現在、トルコとシリアの国境付近で起きた大規模の震災が報じられていますが、シリアもまた、内戦による町の破壊に加えてこの度の地震です。

自然災害は防ぎようもないところがありますが、それに加えて人災が更にことを大きくしてしまいます。政治の力は大きな助けになるはずですが、正常に機能していなければどうでしょう。たくさんの人びとが「しあわせなとき」を奪われ、地図を書き換えられてしまいます。

世界中で、どれだけの人びとが「しあわせなときの地図」を胸に抱えて生きているのでしょうか!?

ソエという名前はギリシャ語で「命」「人生」を意味します。ソエは、思い出の中にある楽しかった時間、人生がプレゼントしてくれた小さな喜びをたどります。そういうもののなかにこそ、ほんとうの幸せ — 残念ながら、ソエが失おうとしている幸せ — があるのです。(作者フラン・ヌニョの言葉)

「一人でも多くの人々が『しあわせなときの地図』を取り戻せるように!」と、祈らずにはおられません。

こども基金援助報告

援助先：Roof for Hope ～アフガニスタンのこどもたちへの越冬救援～
第一期：2022年 総額 70万円 ・ 第二期：2023年前期分 40万円

■背景

アフガニスタンでは 2021 年 8 月にタリバンが全土を掌握して以来、庶民の暮らしはますます困窮を極めるようになりました。特にモンゴル系ハザラ民族は、タリバンから職や住まいを奪われるなどの露骨な迫害を受け、こどもたちは学業を禁止され、特に女性は誘拐や暴力の危険にさらされています。

■Roof for Hope の活動

ハザラ民族の多く住む西カブールでは、人びとの暮らしが特に困窮しています。この地域の小学校の教師であるザリファさんは、Roof for Hope という名のグループを作り、海外からの個人的なカンパを頼りに、貧しい家庭への援助を続けています。

■こども基金援助決定

2021 年、タリバンが侵攻した初めての冬、多くのこどもたちが飢えと寒さで亡くなりました。2022 年の政情は更に悪化し冬を越せないこどもたちが続出しています。そこでシナピスこども基金では、特に貧しい家庭を優先に約200 人分の小麦粉と薪を配給する事にしました。



小麦粉と油を均等に分ける

■課題

飢えと寒さに苦しむ人が何百人もいるなかでの救援物資の配給は、もらう人ももらえない人との間に争いを生む結果を招きました。また、一回きりの救援物資で援助費はすぐに終わってしまう問題もあります。

援助の基本で教えられる例え話「空腹の人に魚を買って与えるのではなく、釣り竿を与えて魚の取り方を教える」のように、細々とでもコミュニティーの中で継続的な援助につながるような活動は、ないものでしょうか。そこでこども基金ではアフガニスタン人スタッフのロキアさんに尋ねてみました。ロキアさんの答えは明確でした。

「野獣に囲まれた小動物は、天から降ってくる餌でしか生き延びることはできないのです。」

タリバンに包囲された村びとたちの存在はあまりに小さく、国連や国際 NGO の支援の届かない所で縮こまっています。

■みんなで考えて決めた援助

1. 援助物資を受け取った人びとのリストを作り、次回まだ受け取っていない家庭に配るよう努力すること
2. 援助は真冬に限定すること
3. 活動場面の動画を送って報告書の代わりとすること
4. 次の冬が来る前に少しでもお金が有効に使えるよう知恵を絞ること

“何もない人びと”にまず差し出すのは、食べ物と暖を取る物です。

春まで生き延びたら、次の援助を考えます。



食糧を取りに来た子どもたち

こどもの権利を知るキャンペーン実施中！！

(1月29日「世界こども助け合いの日」～5月5日「こどもの日」まで)

キャンペーン期間中、こども基金の趣旨に合ったイベントを開催する方がたにこども基金から助成金を出します。ドシドシご応募ください。

二つの感動

障がい者委員会委員 うちのなのおゆき
内野直幸

外出するといろんな出来事に遭遇します。今回は二つの出来事について紹介します。

一つ目はある鉄道駅からタクシーに乗車した時のことです。そのタクシーの運転士さんはその鉄道駅を出るとき「それでは〇〇駅前をただいま出発して目的地に向かいます。シートベルトをしっかりとお締め下さい。」とおっしゃってくださったあと、目的地までのすべての通過地点、通過していく施設を案内してくださいました。そして「あと3分で目的地に到着いたします。」とおっしゃり目的地に到着すると「ただいま到着いたしました。どうぞお忘れ物の無いようお降りください。またのご乗車をお待ち申し上げます。」と乗車してから降りるまでとても丁寧に案内してくださいました。このような運転士さんに出会ったのは初めてでした。領収書をいただきましたので、今後このタクシー会社のタクシーを利用しようと思います。

二つ目の感動は、地域の視覚障がい者団体の行事で、一般高校の吹奏楽部の演奏会を聞きに行った時のことです。1時間半の演奏はとても迫力があり良かったです。そして終了して、何日か後に主催者からの報告があり、吹奏楽を演奏した高校生は、まず点字で曲目を書いたプログラムを読んで聞きに来ていた視覚障がい者に感動したそうです。そして視覚障がい者が演奏を聴く態度が素晴らしくて、テンポのよい曲は手拍子をしてくださったり、歌を歌ってくださったことに感激したとのこと。またその高校生の内の一人がその演奏の日、自宅に帰ってご家族の方に「今日の視覚障がい者の聴く姿勢にすごく感激したわ。」と泣いて話していたそうです。こんな事を聞いたのは私は初めてです。人を馬鹿にしたり、うそをついたり、裏切ったりすることの多い今の世の中で、こんな感動的なこと、こんな優しい人がいることに心を打たれました。これからもこのような感動的な出来事に遭遇したり、純粋で優しい人に沢山出会えたらよいなあとと思います。



手話ミサやっています！

六甲教会 主任司祭 はなふさ 英 りゅういちろう 隆一朗

六甲教会では月 1 回、手話付きミサを始めました。当教会の信徒の中には、聴覚障がい者が 3 名、熟達した手話通訳者が 1 名いて、主任司祭も少しだけ手話ができます。別の教区でも障がい者といろいろとつき合いが多かったです。これだけそろっているならばということで、月の第 1 日曜日午前 11 時に、手話通訳付きのミサを行っています。

よい機会なので、ミサ前には参加者全員で簡単な手話の練習をして、手話に興味のある人たちを少しずつ増やしています。ミサ後は、聴覚障がい者といっしょに茶話会をしています。健常者が少しずつ手話を習いながら、楽しい交流の一時をもっています。

所属以外の聴覚障がい者の信徒も 2、3 名参加されるようになり、少しずつ輪が広がっていて微笑ましいです。どんなミサなのか、興味のある人は一度来て見てください。

大阪教区は障がい者とともに歩む意識がもともと強い教区だと思います。この教区の中で、障がい者や支援者と出会うことが多いです。六甲教会も障がい者を初めとして、小さくされた人びととともに歩むシノダリティのある教会になっていくように、心から願っています。



「外国人住民に聴く会」の感想



エリック・デ・グスマン神父



春節について学ぶクラスの様子

1月24日（火）、東大阪市内にある意岐部中学校の夜間学級の授業参観に行ってきました。留学生として日本に来た私にとって、その授業風景は、日本に来て間もない頃の自分を思い出させてくれました。言葉や文化の壁、場合によっては年齢の壁もありながら、学習を続ける決心は素晴らしいことだと思います。日本で長期滞在を考えている外国籍住民は日本の言葉や文化などを学ぶと、それらを全く学ばない場合より、日々の生活が大きく変わることを、私も経験しました。自分では想像もつかないほど、自分や周りの人たちが助かるのです。また、夜間中学を支えてくださる方々の忍耐と努力にも感動させられました。おかげさまで、多くの人生がより良い方向に変わっています。

最後に、限られた時間でしたが、夜間学級の学生たちに質問をさせてもらう時間も設けられました。最初は学生たちは分かち合うのに戸惑っていましたが、次第に自分たちの経験を素直に話してくれるようになりました。実は、私も彼らと同じような経験をしているのだと気付かせてくれたひと時でした。外国籍の人にとっても、日本人にとっても、住みやすい日本社会が、一日も早く実現することを心から祈っています。



シナピスホーム便り



やまだ なおこ
山田 直保子

2023年初めての投稿です。

引き続き今年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、シナピスホームでは、今年は1月18日からカフェを開催しています。初日は常連さんたちが玄関の前で開くのを待っていてくださ

るといことがありました。そして皆さんと新年のご挨拶をして、今国会で再提出される入管法改悪法案の話題や、入管内の話、犯罪を起こしてしまう仮放免者の背景と心理など、実に濃い対話の時間となり、とても勉強になりました。難民移住者がもてなすカフェであるがゆえ、みんなで色んな体験談、解決策を話し合えるのは、ここでしかない貴重な場だと思っています。

当事者たちはとても辛い状況、日本国に見捨てられた環境にあります。ここでは当事者たちが直接語りかけることができるので、説得力もあり、お客様は毎回自分の事のように聞いて一緒に考えてくださいます。そして、その事はだんだんと日常の悩みも話せるようになっていき、ひとりじゃないという大きな力になります。最近では難民移住者たちが、常連さんの事をよく話したり心配したりする事が増えてきました。人間ってこうだよねといつも思い嬉しくなります。彼らの立場は仮放免で政府から排除されようとされていますが、私たちと同じように生きているんです。私たちと同じように食事をして、お風呂に入り、眠る。当たり前のことを書いていますが、就労禁止が仮放免の条件である当事者たちは支援がなければ食事をするお金もありません。

なぜ同じ生きている人間同士なのに、こんなわかりきった仕打ちを与えるのか全く理解できないよねという話をしている、カフェを閉めた後、一人の難民移住者が「ここに来る人は一緒に怒ってくれるね」と嬉しそうに笑顔でぼそっと言いました。仮放免、難民認定、医療の問題、様々なつらい状況だけでも、カフェに集う皆さまと、いつでも話せるという「力」は、いつかすべてを覆す大きな力になるぞと新年最初のカフェを終えて強く信じることができました。

私事ですが、ギランバレー症候群の後遺症のため、電動車イスに乗っていましたが室内は杖なしで歩いている私は、通勤途中に出会う様々な身体の不自由な方が、私よりも足が動かないであろうに杖を使い、時間をかけて一步一步確実に歩いているのを何度も見ました。こんなに頑張っている人がいるのに、私は車イスで楽をしていると乗っていることに恥ずかしくなりました。散々リハビリでは日常生活が最高のリハビリになると言われているのに私はなんの努力もしていないじゃないか。ここまで回復してきたんだからさらなる努力が必要だと強く思いました。

車イスがなくなることに大きな不安があり、周りも心配して反対しましたが、レンタルだったので、無理ならまた借りたらいと心に保険をかけて、12月に車イスを返却しました。そこからはどこに行くにも歩かないといけなくなりました。思った以上に大変でタクシーを使う事もありますが、着実に足腰が強くなり、そしてすごいスピードで歩けるようになってきました。今ではあの時車イスを手放す勇気を持って本当によかったです。

今年も変わらず、日本で私たちと同じように「生きている」難民移住者のことを皆さまに伝えていける、関心を持っていただけるようなカフェでありたいと思っています。どうぞ応援してくださいね。



祈りの集い



第15回シナピス主催祈りの集い「平和の君の誕生を祝う」を12月8日に行いました。司式は大阪教区のエリック・バウチスタ・デ・グスマン神父にお願いしました。イザヤ書11章6～10節を、ライオン、羊、馬、昆虫、こどもが一緒に寝そべっている可愛いスライドとともに味わいました。「皆で等しく草を食べ、人間も動物も一緒に居る。終わりの日にはこうなっていると信じて待降節の間『平和の君』、平和をもたらす人の到来を首を長くして待とう」というメッセージがありました。

その後世界中の1年間の出来事をスライドで見ながら黙想し、世界平和について各自が祈りを捧げました。



第16回シナピス主催祈りの集い「世界の平和」を1月12日に行いました。司式をイエズス会司祭、^{はなぶさりろういちろう}英隆一朗神父にお願いしました。

マタイ福音書2章13～23節を読んで、ご降誕の登場人物について読み深め、次のメッセージをくださいました。「なぜ三博士は星に導かれ、わざわざ遠く離れたところから高価なプレゼントをマリアとヨセフに贈りに来たのか。なぜ羊飼いたちは降誕の時に招かれていたのか。ヘロデ王の手から逃れるためにエジプトへ行ったマリア、ヨセフ、イエスはまさしく難民でした。政治体制が変わり逃げざるを得なかったシリアやアフガニスタン難民と同じ、難民としての暮らしはとても大変だったと思われま。公に身分を明かして仕事をするのも出歩くことも難しかったはず。東方の三博士から貰った高価な贈り物はエジプトまで逃げる資金、また生活資金であったのかも知れません。羊飼いは野宿するための物を差し出すために招かれていたのかも知れません。では、このことを現代に当てはめてみた場合、私たちはどのように難民を助けようとしていますか。星に導かれて行くのではなく、インターネットで世界中にいる難民を探し必要な物資、資金を送ろうとしているのではないのでしょうか。東方の三博士、羊飼いの役割を黙想し、自分たちの役割を考えてみましょう」



第17回シナピス主催祈りの集い「病者のために祈る」を2月9日に行いました。司式はガラシア病院チャプレン^{まつもとのぶよし}松本信愛神父にお願いしました。

「祈りには結果を疑わない『感謝の祈り』と、結果がすぐには見えない『嘆願の祈り』があります。病者のための祈りは、病気が治りますようにとか死にませんようにというお願いの祈りで、結果的に願いがかなわないことが多く、重病人や瀕死の人にとっては祈りは無駄だったと感じることでしょう。けれど、イエスもマタイ福音書26章36～39節で『わたしは死ぬばかりに悲しい。この杯をわたしから過ぎ去らせてください。』と死なせないで欲しいと神に祈っています。結果的に十字架にかかることとなりますが、そのように神に祈ることは人間として当たり前だということです。

『祈る』ということは神との繋がりが深くなることで、病人への愛のあらわれが祈りです。病者やその家族に『お祈りしますね』と声をかけることは、神からあなたに必要な力が与えられますようにと願うことで、声をかけられた人は自分のためだけに時間を割いてくれている、一人ぼっちではないと思え勇気がでます。人として出来る限りのことをし、あとは神にゆだねましょう」と、話して下さり、アーメン・ハレルヤを弾き語りしていただきました。明るい雰囲気のアーメン・ハレルヤに、集った人の心に勇気が芽生えました。

次回の祈りの集いは
3月9日(木)20時半～
「東日本大震災のために祈る」

Zoom 参加↓↓↓
ID: 761 071 2034
パスコード:123456



投稿欄 “ガリラヤの風”



『「経口中絶薬承認に反対する署名用紙」に対する反響を受けて（第5回）』

匿名希望

女性と胎児を支援したい思いで一杯です。

受精卵は生きています。NHK E テレの「高校講座生物基礎」で、受精卵の1回目の細胞分裂の映像を見ました。生きていることは疑いようがないです。

これがヒトになってゆく、というのは驚きですが、もう既に成人した時と同じ遺伝子の塩基配列をもっているそうです。親とは血液型も性別も性格も異なっても自然な、一人のヒトになるのです。これが「私」になるのに必要なのは、時間と養育だけです。その為に必要なのは社会と教会の、胎児と母親である女性への十分なサポートです。

妊娠 21 週までは中絶が合法だそうですが、生物学者の福岡伸一さんは NHK の「最後の講義」という 50 分番組の 34 分目から語っておられます（できるだけ正確に書き起こしました）。

「(脳死の概念がうまれてきたのは) 新しい産業がうまれるからです。新しい医療が生まれ、お金をもうけられる人が増えるからです。・・・脳死というのは臓器移植のために死の地点を前倒しした、そういう分節的な機械論的な生命観に基づく、生命の分断なわけです。これと全く同じことが生きる方にも言える。・・・

受精卵という新しい状態ができたところが、新しい生命の一応暫定的な出発点というふうに考えると、もうここから生命は出発しているわけです。しかしこの脳が始まるという概念を持ち出すと、胎児の脳が機能し始めた時【22 週目より後】が人間の始まりだっていうふうに考える考え方だって成り立つわけです。・・・(そうすると脳が始まる前の) 期間も使えるわけですよー医療上、あるいは生物学上のツールとしてーだから実際に胎児の細胞を使って、新たな再生細胞を作るとか、いろいろなことに使えることになるわけです。これまた機械論的な生命観による生命の操作ということにつながっていくわけです。

だからこの脳死も、脳が始まる方の脳始も、人工的な切れ目なので、この考え方は医療の進歩でも何でもなくて、両側から我々の生命の時間を短縮してくれているわけなのです」(中略、引用終り)。

私はこれを聞いて、21 週目までの胎児はまだ人間でないとは言えないのだなと思いました。

女性を裁くためでも、攻撃するためでも、罪に定めるためでも、抑圧するためでもありません。胎児にも母親である女性にも健康で幸せであって戴きたいのです。誰かに罪を犯されて妊娠させられたのなら、正義と赦しと癒しを共に祈りましょう。貧困、差別、虐待、サポート欠如、孤立、拘束があるなら、助けと解放をみんなで求めましょう。でもその問題の解決のために、生きている子の命を止めることだけは、どうしても思いとどまって戴きたく、筆をとりました。

またどの立場であれ、この一文に目を留めて下さる方が、予期せぬ妊娠をされた女性に寄り添い、胎児ともに支援して下さるように、祈っております。支援団体のちらしや案内は、教会でも一般の新聞でも薬局でも、見かけることがあります。是非御一考下さい。

みんなのけいじばん



トルコ南東部地震救援募金 受付開始

カリタスジャパンは「トルコ南東部地震救援」募金の受付を開始しました。

2月6日未明、トルコ南東部とシリアでマグニチュード7.8の大地震が発生、その数時間後には別の大地震も発生し、現地は壊滅的な状況に陥っています。両国ではすでに1万人（2月10日現在）を超える人の死亡が報告されており、今後も増えることが予想されています。

国際カリタスでは、カリタス・トルコや現地のカリタスを通して被害の規模やニーズの把握をすすめています。

カリタスジャパンは今回の地震の被害規模と被災地状況を踏まえ、「トルコ南東部地震救援」募金を受け付けることを決定しました。お寄せいただいた募金は、被災地域で行われる救援活動のために活用させていただきます。

募金受付口座は次のとおりです：

郵便振替：00170-5-95979
加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
※記入欄に「トルコ地震」と明記してください。

本活動終了時に残金が生じた場合には、今後起こりうる災害の緊急対応のために使用させていただきます。

その他詳細は、カリタスジャパンホームページをご覧ください。▶▶▶



シナピスから

アルコールジェル無料配布中!!

500ml入りプッシュボトルタイプのアルコールジェルを無料配布しています。

1本でも1箱（40本入り）でも、必要数を差し上げます。ご希望の方はシナピスまで！

※引き取りに来てくださる方限定

ボランティア募集!!

シナピスでは運転奉仕、言語奉仕をしてくださるボランティアを募集しています。

関心のある方はシナピスまで！

連絡先：カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

TEL：06-6942-1784 FAX:06-6920-2203 E-mail: sinapis@osaka.catholic.jp

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

シナピスの風

*掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。 第156号 2023年3月1日発行

3月の祈り

四旬節にあたって

「祈り」、「断食」、「施し」。

四旬節に入って繰り返されることばです。

主よ、あなた自身が、

ガリラヤの山に集った人々に語ったことばです。

神と他の人々とのより深い交わりに

わたしたちを導くことばです。

「祈り」のうちに、あなたのことばを聴き、

あなたの心を学びます。

また、祈りのうちに人々の叫びが聞こえてきます。

「断食」によって様々な執着から解放され、

人々に寄り添う心が育てられます。

「施し」によって与えられたものを分かち合い、

一人ひとりの尊厳が守られる社会を築きます。

主よ、わたしたちの四旬節の歩みを

導いてください。アーメン。



トルコ南東部地震救援募金 受付開始

カリタスジャパンは「トルコ南東部地震救援」募金の受付を開始しました。

お寄せいただいた募金は、被災地域で行われる救援活動のために活用させていただきます。

募金受付口座は次のとおりです：

郵便振替：00170-5-95979

加入者名：宗教法人カトリック中央協議会
カリタスジャパン

※記入欄に「トルコ地震」と明記してください。

*本活動終了時に残金が生じた場合には、今後起こりうる災害の緊急対応のために使用させていただきます。

その他詳細は、カリタスジャパン

ホームページをご覧ください。▶▶▶



オンライン祈りの集い

～世界平和のために祈る～

テーマ：

「東日本大震災の被災者のために」

お話：片柳弘史神父<イエズス会> (予定)

3月9日(木)20時半～(30分)



Zoom ID&パスコード(100名まで参加可)

ミーティングID：761 071 2034

パスコード：123456



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともに
お送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。
シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

シナピスカフェ

★毎週水曜日 13時ごろ～16時ごろ

3月の開催：1、8、15、22、29

★月1回土曜日 11時ごろ～16時ごろ

3月は休みます。



*新型コロナウイルス感染対策のため、
人数制限を行っています。
人数把握のため事前にご連絡ください。

★4月から毎週水曜日を毎週土曜日に変更します。

シナピスホーム：生野区中川6丁目6-23

☎：080-8940-8847



シナピス工房カタログ

2023年版カタログVol.1ができました。

イエスの生涯を思い起こす四旬節に、またご復活、洗礼式や初聖体の
プレゼントにいかがですか。



シナピスでは 移住者や
ボランティアの方々にも
にロザリオやカード、雑貨
などをつくり皆さまにご提
供させていただいていま
す。ご寄付は難民移住移動
者の生活支援に役立てられ
ます。どうぞ、ご協力をお
願いたします。

支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。
日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、油、米、
そしてレトルトのご飯などのご支援をお願いいたします。

感謝



シナピス公式

Instagram・LINEができました！

さまざまなお知らせや情報を発信！

👉 友達追加はQRコードから 👈

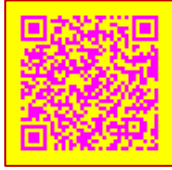


「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！

👉友達追加は QR コードから👈



活動へのご支援ご協力

よろしくお願ひいたします。



郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願ひいたします。



支援物資提供のお願い

米、ハラル食品、レトルト食品
テレフォンカード、不織布マスク
レトルトご飯、缶詰、油



お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。



◀◀◀ HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

あとがき

アフガニスタンがタリバンに制圧され、難を逃れてきたロキアさん一家が来日したのは昨年の2月25日でした。その一日前の2月24日、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、一昨年の2月には突然のミャンマー軍によるクーデター。どれもいまだに平和からはほど遠い状況です。

先の大戦では、あっという間に暮らしは一変して戦場と化し、アジアでは2000万もの人が犠牲となりました。

今年の9月1日には関東大震災から100年を迎えます。大地震による死者はもとより、デマによって朝鮮人、中国人たちが虐殺され多くの命が奪われました。12年前に突然襲った東日本大震災は甚大な被害をもたらし、その上、政府や東電が豪語した安全神話を一瞬にして崩した原子力発電所の爆発事故により、いのちが危険に晒され暮らしと健康は守られないままです。

今、ベラルーシやウクライナに接するポーランドでも、有事に備えて若者の志願兵が増えているようです。

2月23日教皇フランシスコはロシアとウクライナの戦争に言及し「悲しい記念日」と述べ、停戦と和平交渉をよびかけておられます。

これ以上「悲しい記念日」が増えないように、過去を振り返りながら、平和への思いをあらたにしたいと思います。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約1000m

地下鉄中央線森ノ宮2番出口より 約800m

JR 玉造駅より 約1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造1番出口より約800m

●車でお越しの場合

阪神高速13号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがひします

☐郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

☐三井住友 玉造支店 普通 9401958

☐オンライン シナピスホームページ

「寄付をする」➡➡➡

